NPO法人 Re-Live

http://npo-relive.com/

「生まれ育った故郷の窮状を、何とかしたい」
大阪府岬町には、そんな想いで町の
活性化に本気で取り組む人たちがいる。
その中心的存在が、NPO法人Re-Liveを
立ち上げた松尾匡さんだ。

会社概要

所 在 地：大阪府泉南郡岬町淡輪 710-2
業　　種：その他のサービス業（町づくり・農園・障がい者就労支援ほか）
設　　立：2014 年 5 月
従業者数：6 名

「岬町でしかできないこと、岬町に来なければ体験できないこと、そんな新たなことを生み出していきたいんです」

STEP1 創業のきっかけ

「故郷がなくなってしまう……」。自らのスキルを町の活性化に！

大阪府の最南端、和歌山県との県境にある岬町。町内には自然海岸「長松海岸」など風光明媚なスポットが点在し、穏やかな大阪湾の向こうには淡路島が横たわる、豊かな緑に囲まれた静かな町だ。

この町で生まれ育った松尾匡さんは、大阪市内の文房具メーカーでデザインや商品開発の仕事に従事してきた。しかし次第に、大量生産のものづくりに疑問を持ち始め、使い捨て文化ではなく循環型社会を目指す可能性を独自に探り始める。本業の会社員の仕事と並行して、勉強に励む毎日が続いた。そして4年後には初めて自分でつくったサイトを立ち上げることに成功。「その勉強を通じて、ウェブデザインやプログラミングの知識が身に付きました。これらのスキルと今まで培ってきたプロダクトデザインやグラフィックデザインのスキルを合わせて、自分が目指す社会に向けての出発をしようと思ったのです」。会社を辞め、ウェブ制作・広告代理店としての独立を決意。会社の本拠地は、故郷の岬町に置くことを決めた。

ところが、生まれ育った岬町にはさまざまな課題が山積していることを知った。「岬町で商売をしている中学の同級生に誘われ、商工会や地元の活動に参加したとき、今まで特に意識していなかった町の課題を知ったのです」。雇用機会の喪失や人口減少、進む高齢化などの原因により、休耕地や空き家が急増している実情を目の当たりにした松尾さんは、「このままでは岬町がなくなってしまう」との危機感を強く抱いた。「この町の未来を考え、商工会などで皆さんと話し合いを重ねているうちに、自分にできることは何か、と考えるようになりました。自分にはウェブやデザインのスキルがある。それを活かして、みんなと力を合わせてこの町の課題をビジネスモデルにして解決していこう」、その想いをもとにNPO法人Re-Liveを設立した。

STEP2 事業スタート

「休耕地×ウェブ」の発想で、地元に注目と雇用を生み出す

まず始めたのが、インターネットを活用した「リモコン農園」（http://remocon.npo-relive.com/）という貸農園サービスだ。休耕地を町外の方に貸し、スマートフォンやパソコンから野菜の植付け・栽培・収穫を遠隔操作で管理してもらう。野菜に対する安全面の不安もなく、植付けや収穫などの作業は、岬町内の障がいを持つ方に手伝ってもらうことで対応しているので、実際の農作業をしなくても、自分で野菜を栽培する楽しさを味わえる。また、岬町に足を運びやすい方には、実際に作業ができる貸農園サービスも始めた。

さらに障がい者の雇用創出という点から、Re-Liveでは多機能型障がい者就労継続支援事業所も設立した。スタッフの人件費などの運転資金は、商工会から紹介された日本政策金融公庫からの融資により対応することができた。こうして、Re-Liveの活動は徐々に活性化していった。

STEP3 今後の展望

「課題」を「資源」と捉えていくことで、岬町の未来を描いていく

岬町には美しい海のほかにも、山の風景や、前方後円墳などに代表される長い歴史がある。町が持っているこれらの資源を観光産業の目玉としながら、現在直面している「課題」をも「資源」と捉えていくことが大切だ、と松尾さんは語る。「自然が豊富ながら大阪から1時間ほどで来られ、関西国際空港にも近い。しかし岬町に目を向けてもらうには、やはり面白くて価値あるビジネスプランを考え、町外の方々に岬町のファンになってもらうことが必要ですね。岬町でしかできないこと、岬町に来なければ体験できないこと、そんな新たなことを生み出していこうと思っています」。それが地元の雇用を生み出し、町が活性化するきっかけとなることを目指しているのだ。

一方でそのためには、地元の意識の改革も必要だ。「普段目にしている光景がいかに素晴らしいのかを、地元住民に気付かせてあげることが大事だと思っています」。そのためにも、町外の人々と、地元住民とが触れ合ってもらうことが必要なのだ。

松尾さんは語る。「町外の方々が岬町で喜んでくださっている姿を見れば、岬町の人たちにも『うちの町はこんなに良いところなんや』と気付いてもらえると思います。そうなると、岬町が自らの力で活性化させる動きももっと生み出されてくるのではないでしょうか」

Point of note

■ 循環型社会とは

今ある資源を効率的に活用することや再生産などにより、持続可能な形で循環させて利用する社会。松尾さんは前職のメーカー勤務時代からこの考えを追求しており、NPO 法人 Re-Live の課題を資源と捉える取り組みは循環型社会の実現につながるものと言えよう。

Re-Live の事務所は古民家を活用。地元の人たちが集まって日々将来の展望について話し合う場所でもある。

ヨットハーバーを望む丘から。海の向こうは淡路島。

大阪府の自然海岸「長松海岸」。

「リモコン農園」の HP 画面。

貸農園は都会に住む人にも人気。スローライフを満喫。

Profile

NPO 法人
Re-Live
理事長
松尾 匡さん

ウェブやデザインのスキルを活かし岬町の活性化を図るため、2014 年 5 月に NPO 法人 Re-Live を設立。町全体で活性化に取り組む必要性から、町議会議員も兼任している。